



安城市議会議員 石川つばさ通信 号外

市政レポート

コミュニティユニオン 東海ネットワーク合宿 開催



6月24～25日、静岡市内においてコミュニティユニオン東海ネットワーク合宿が開催されました。東海四県で活動するコミュニティユニオンが一堂に会し、それぞれの地区の現状、課題などが報告されました。その一部を紹介したいと思います。特定を避けるため、組合名は割愛します。

愛知

- ・団体交渉、労働委員会あつせん、裁判いずれも複数抱えている。南米系外国人組合員が増加傾向にある。労働法制改悪反対の行動も継続したい。
- ・外国人問題に対応すべく、組織作りをしている。小さい組織ながら、各国の言語に対応できる。
- ・企業の倫理違反を指摘したら首を切られる事案が発生した。抗議したり、メンタルを病んだりすると仕事から外し遠回しに辞めるよう仕向ける手口も広がっている。株主総会開場前での街頭活動なども行なう必要がある。
- ・セクハラ問題は弁護士に相談されるケースが多い。労働弁護士なら良いが、そうでないと金銭解決で終わり、会社の体質は変わらない。若い女性にユニオンが身近にならなければならない。

岐阜

- ・複数支部があるが、支部で温度差がある。団体交渉に他の支部の人に参加してもらうなどの工夫が必要である。

三重

- ・企業内組合と連携するケースも出てきている。活動をするにあたり、役員の高齢化の問題がある。後継者の育成が必要である。

静岡

- ・いきなり自分自身の問題で団体交渉に挑むのは難しい。他の団体交渉に参加するなど、経験を積むことが必要だ。
- ・交通事故をきっかけに解雇されそうになったのを撤回させたところ、交通事故の後始末も対応することとなった。労働相談にとどまらず、生活の相談に繋がるが多々ある。
- ・交渉相手の弁護士があれこれ揚げ足をとってくる。ブラック弁護士の対処策も重要だ。
- ・外国人労働者には厚労省が発行している外国語パンフレットが有効である。

各地、課題は尽きませんが、こうした取り組みが労働条件の悪化を食い止めている事に疑いの余地はありません。一層のユニオン強化が今後求められます。

※コミュニティユニオン

所属している企業を問わず、個人単位で加盟できる労働組合。活動範囲となる地名を冠にして「〇〇ユニオン」などと名乗ることが多い。